

○質 ……ただす。是非を明らかにする。問いただす。判定をしてもらう。

○詎 ……「なんぞ」「いづくんぞ」と訓み、反語の意となる。なお「誰」とする諸本もあるが、「誰」は(○)であるため、二四不同の原則から考えて、ここでは写本の一部や刊本にある「詎」(●)を採った。

○筵簞…古の卜法の一。卜する時、眼前の草木の枝を折りその多寡を数えず三本ずつ数え取って、その残りを
用いて吉凶を定めるもの。『新字源』では「草を結び竹を折り、その結び目や折れた形で占いをする」と説明する。

『漢語大詞典』では、「亦作筵簞。古楚地人占卜的一種方法」と説明し、『楚辞』「離騷」の「索菝茅以筵簞兮、命靈氛為余占之。王逸注、索、取也。菝茅、靈草也。筵、小折竹也。楚人名結草折竹以下曰簞」の用例を引く。

この用例について新釋漢文大系『楚辞』の「語釈」では、「王逸は、「筵」は小折竹なり。楚人草を結び、竹を折りて以って卜するを名づけて「簞」と曰う」と注する。五臣注に「竹筴」という。聞一多の『枚補』に『玉燭宝典』『類聚』その他に二字とも艸冠になっているという。ここは動詞に用いたものと見て草木を以って占うと解する。一に「菝茅と筵とを索りて簞す」と読み、靈草と小さく折った竹とで占うのだと、いう。しかし筵簞の二字を算木にして数え占うと解する聞一多説が楚辞の語法上からも穏当であろう(53～54頁引用)との説明を載せる。

199 ○敘意…おもいを述べる。『漢語大詞典』では、「表達心意」と説明し、『三国志』「呉志、趙達伝」の「倉卒乏酒、又無嘉肴、無以敘意、如何」の用例を引く。

200 ○何人…どのような人。いかなる人。なんびと。